

# 指導資料



鹿児島県総合教育センター

## 特別活動 第16号

- 小, 中, 高等学校対象 -

平成15年11月発行

### 総合的な学習の時間との関連を図った特別活動の進め方

変化の激しい社会を主体的に生き抜くためには、児童生徒一人一人が個性を發揮し、豊かな自己実現を図っていくための力を育成することが求められている。中でも生きる力の育成に当たっては、特別活動と総合的な学習の時間の果たす役割は大きい。

しかしながら、特別活動と総合的な学習の時間が混同されたり、両者の関連について十

分な配慮がなされないまま活動が実施されたりするといった問題が指摘されている。

そこで、本稿では特別活動の一層の充実を図るため、特別活動と総合的な学習の時間それぞれの目標・ねらい、内容・学習活動などを明らかにし、総合的な学習の時間との関連を図った特別活動の進め方について述べる。

#### 1 特別活動と総合的な学習の時間の比較

特別活動と総合的な学習の時間を、その目標や内容等によって比較すると、以下のとおりである。

	特別活動	総合的な学習の時間
目標・ねらい	望ましい集団活動の育成 自主的、実践的な態度の育成 人間としての生き方の自覚と自己を生かす能力の涵養	自ら課題を見付け、自ら学び、問題を解決する力などの「生きる力」の育成 学び方やものの考え方を身に付け、問題解決に向けての主体的、創造的な態度を育てること 自己の生き方について考えることができるようにすること
内容・学習活動等	学級活動・ホームルーム活動 児童会・生徒会活動 学校行事 クラブ活動（小学校のみ） 活動の目標を児童生徒全員でつくり、目標に向けて協力して課題解決に向けて追求する集団活動	国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題 児童生徒の興味・関心に基づく課題 地域や学校の特色に応じた課題 など 一人一人の児童生徒が課題を設定し、課題解決に向けて集団もしくは個別で追究する活動
共通点	教科書がなく、各学校の創意工夫によって創られる教育活動 課題解決的な学習が中心で、体験的な学習を重視すること 人間としての在り方、生き方を考察し、現在及び将来の生活をよりよく改善することを目標の一つとしていること など	

このように、両者にはそれぞれ固有の目標・ねらい、教育内容や活動形態等の特色がある。これらの独自性、共通性を生かし、関連させることについて考えていくことが必要である。しかし、両者の共通点として、体験的な活動を重視することが含まれているので、学校行事と総合的な学習の時間は、混同されることが多い。

そこで、今回は学校行事をさらに充実させるために、どのように総合的な学習の時間と関連を図ればよいかについて焦点を当てる。

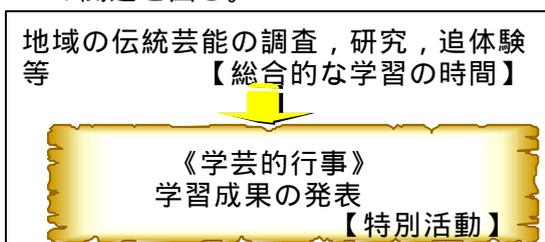
## 2 両者を関連付けるための留意点

学校行事と総合的な学習の時間を関連付けるために大切なことは、両者の教育効果が相互に高まるような指導計画を作成することや、学校行事を総合的な学習の時間の成果を生かす場として位置付けることである。その際、次のような留意点が考えられる。

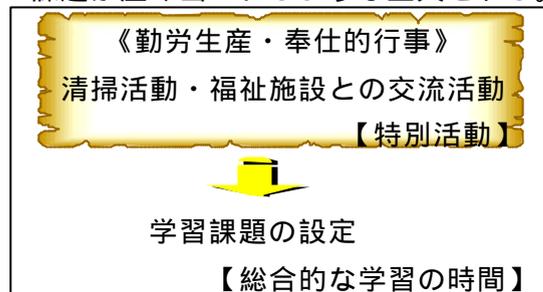
### (1) 指導計画作成の際の留意点

両者のはぐくもうとする資質や能力を互いに生かせるよう、指導の順序を工夫し、配列することが大切である。例えば、次のような留意点が考えられる。

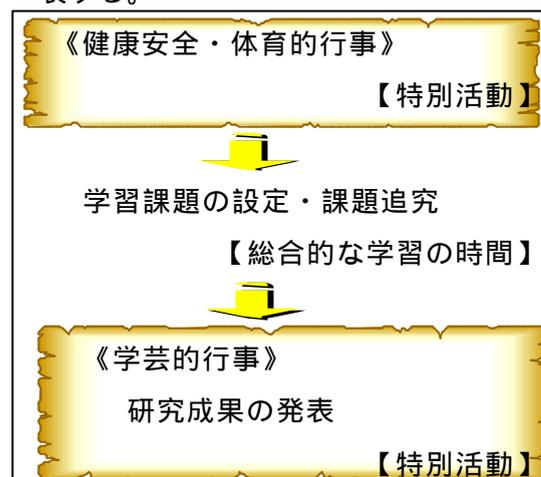
ア 総合的な学習の時間の成果を発表する場として、学習発表会、文化祭等との関連を図る。



イ 勤労生産・奉仕的行事として位置付けられる清掃活動や福祉施設との交流活動を動機付けとし、総合的な学習の時間の課題が産み出されるような工夫をする。



ウ 総合的な学習の時間の導入に健康安全体育的行事としての活動を位置付け、自らの興味・関心に基づいた学習テーマを設定し、その研究成果を学習発表会で発表する。



したがって、各学校において指導計画を立てる際は、学校や児童生徒、地域の実態等を基に作成するとともに、学校行事と総合的な学習の時間との独自性、共通性を意識し、どの時期にどのような関連を図るかを考えて作成することが大切である。

### (2) 双方向的な関連を図るための留意点

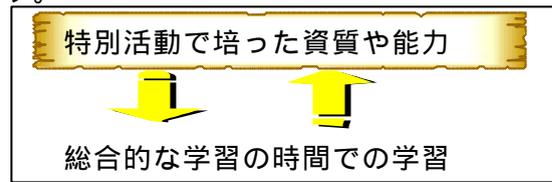
体験的な学習については、活動の形態や方法の面でも共通なところが多い。そこで、両者の関連を図り、教育活動の充

実を図ることが必要になってくる。例えば、次のような留意点が考えられる。

ア 総合的な学習の時間において、地域の人との交流や体験活動を通して学んだものの見方や考え方を基に、よりよい学校行事の創意工夫を目指した計画を立て、実践する。

イ 学校行事として行われたお年寄りとの触れ合い集会などのボランティア活動を通して学んだ社会奉仕の精神を基に、総合的な学習の時間において課題追究の場を設定し、学校行事での学びを更に生かす。

す。



したがって、総合的な学習の時間における学習活動が、特別活動の学習活動に発展すると同時に、特別活動で学んだ実践的、体験的な学習活動が、総合的な学習の時間の学習活動により深い意味を与え、充実をもたらすなど相互に関連をもっていることを認識した上で、指導の工夫に取り組むことが大切である。

### 3 活動例

#### (1) 両者の関連付けが弱い活動例 『修学旅行・文化祭』

【特別活動】		《問題点・改善点》	【総合的な学習の時間】	
過程	主な活動内容		テーマ「国際理解」	
ねらい	長崎を直接見聞し、各教科における学習を拡充し、広い知見と豊かな情操を育成する。また、その学習の成果を創意工夫をしながら発表する。	A：両者の目標・ねらいの違いが明確にされておらず、ただ単なる活動の移し替えになっている。	過程	学習内容
事前	長崎について調べる内容ごとにグループに分かれ、テーマを設定する。グループで協力しながら調べ学習を行う。	それぞれの目標・ねらいに添った活動計画の作成を行い、修学旅行での体験的な学習の内容を、総合的な学習の時間で更に深化させるという視点が必要である。	課題設定	自分の興味・関心に基づいたテーマを設定する。
本時	A	B：総合的な学習の時間で調べ、まとめたことを学校行事の文化祭の場で発表させるに止まっている。	課題追究	長崎でグループ別自主研修を行う。
事後	調べたことのまとめと文化祭での発表の準備をする。	文化祭のテーマに基づいた学習成果等を発表させるという視点をもたせる。そのため、テーマ設定の段階から見通しをもった活動が展開されるよう、指導を行う必要がある。また、文化祭での発表が次の学習へつながるような視点をもつことも必要である。	まとめ表現	自主研修で追究活動したことのまとめをする。
	文化祭で発表会を催す。			B

(2) 両者の関連を図った活動例

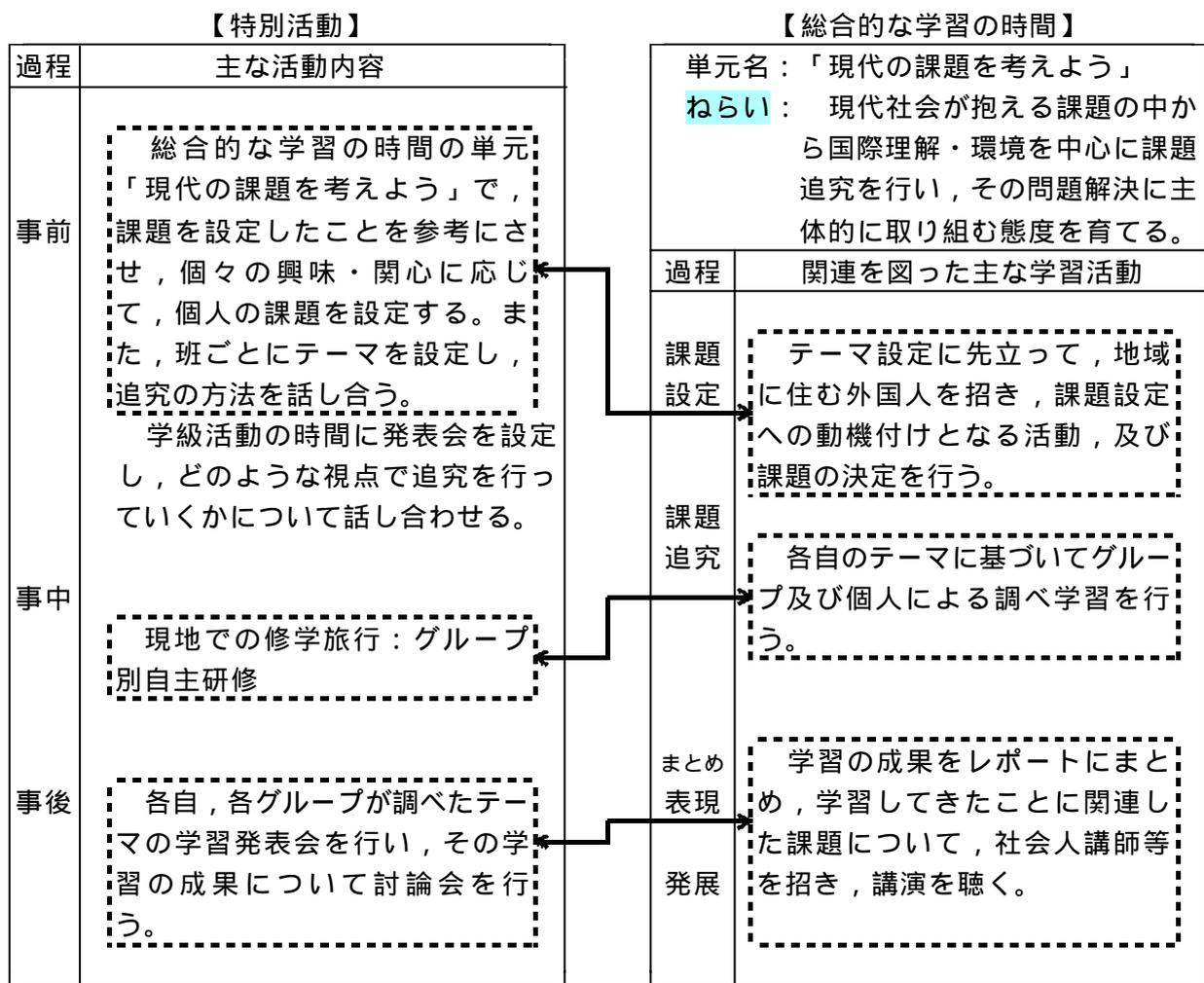
『修学旅行』  
ア **ねらい**

修学旅行での望ましい集団行動を通して、自律心を養い、集団と個人との関係を学び、集団の規律や秩序を守る態度を育成する。  
各自、各グループの興味・関心に応じて学習が進められるよう、自主研修では、課題意識をしっかりともたせる。

イ **関連の視点**

自ら課題を設定し、その課題を追究する場として修学旅行を位置付ける。  
総合的な学習の時間で、これまで学習してきた内容が、修学旅行でも継続して学習できるよう配慮する。  
文化祭以降の総合的な学習の時間に、更なる発展課題が設定できるような具体的な視点を与える。

ウ 展開例



( <=> は、両者の関連を示す )

4 まとめ

特別活動と総合的な学習の時間の関連を図るためには、まず両者の目標・ねらい、内容・学習活動などを確実に押さえることが必要である。次に、共通する部分や重なり合う部分を関係付けたり、重点化したりするなど特色を生かしながら相互の関連性を

図ることが大切である。そうすることで、特別活動の一層の充実を図ることが期待できる。

【参考文献】  
 文部省『小、中、高等学校学習指導要領解説特別活動編』平成11年  
 川八岐著『21世紀型特別活動の実践構想』明治図書平成13年  
 川八岐編『特別活動+総合的な学習の時間プラン集』明治図書平成12年  
 森嶋昭伸・鹿嶋研之助編著『新中学校教育課程講座 特別活動』きょうせい平成12年  
 (教育経営研修室)